

日本太極拳雜誌

# TAIJIQUAN

# 好

ハオ



国際スポーツ・健康法へ .....	1
第2回全日本大会開催決まる .....	2
第1回国際武術招待大会 .....	5
'85年度活動日程 .....	5
84. 6. 24中国武術代表团表演 .....	6
第1回全日本太極拳・中国武術表演大会報告 .....	8
第五次上海太極拳友好代表团活動報告 .....	13
第5次大阪太極拳友好訪中団 .....	14
国際会議レポート .....	16
第六次上海太極拳特別講習会 .....	18
学習種目・簡介 .....	19

No. 5

## 大阪太極拳協会

日本雜誌《太極拳》預告。東京 1984 年 5 月。

# ＝(WUSHU)の国際機構づくりが始動＝



悠久の歴史をへて、**世界へ広がる中国の武術**

## 12ヶ国武術代表国際会議レポート

川崎雅雄

昨年(1983)の10月26日から11月5日にかけて、中国武術協会の招待を受けたフランス・西ドイツ・香港・マカオ・イタリア・日本・メキシコ・フィリピン・シンガポール・スウェーデン・アメリカ・タイの十二の国家と地域の武術代表団が中国武漢市を訪れ、全国武術表演賽(競技会)を参観するとともに、武術(WUSHU)の世界的発展を課題として初の「国際会議」を開催した。

中国を座長として、各代表はまず自国の武術活動の現況を紹介。あわせて世界的な普及についてもそれぞれの意見を初めて交換した。会談の中では主に以下の三つのことが話し合われ、共同の努力をしてゆくことを確認して「覚書」をかき各代表が署名した。

(一) 中国武術は、中国伝統の文化遺産であるが、世界各国の人々の共同の財産として、平和と健康づくりの世

界体育の発展に貢献するべきである。このため、近い将来に協力して国際武術組織を創立させる。

今後、中国を軸として連絡を互いに深めて国際的な機構づくりのための準備を始動させる。

(二) 当面の課題として前記を踏まえて、85年の適当な時期に中国武術協会が主催して国際的な競技会「第一回国際武術招待試合」を開催し、各国愛好者の親善と技術交流の促進をはかる。

(三) このたびの会議に出席した各国、地域の代表は一致して、全世界の武術界が団結を強め、武術の広範な発展のために積極的に協合しあうことを呼びかけてゆく。

こうして「覚書」はかわされたが、武術(WUSHU)界はまだまだ小さくささやかな流れであり、しっかりとしたレ

日本雑誌《太極拳》第16頁展示了1984年2月在武漢市(中國 - 湖北省)舉行的國際武術大會期間的鄧大希大師，並集中討論了有關武術在國際上的發展和未來的問題。等級。

# ＝世界の太極拳(TIJQUAN)へ、武術

ールを世界に築く作業はこれから始まる。各代表の情熱は同じでも、理想とする見解にはまだ多くの相違点があり、組織的には中国、シンガポールを除いた全ては個人が主宰する民間団体であり、アジア諸国以外のアメリカ、ヨーロッパ勢は技術的に他の武術（日本の武道や、テッコンドー、キック、マーシャルアーツ等）の影響も受けており、中国武術協会の忍

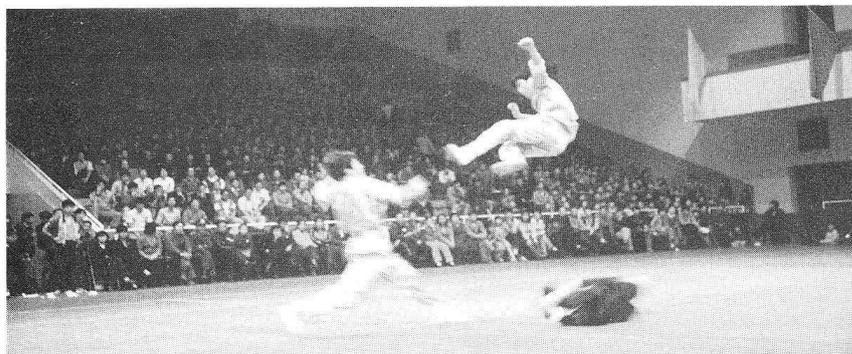
たい強い努力が必要であった。しかし、とにかく「覚書」をかわし、今年8月、唐長安の都西安市にて開催される国際試合での再会を約して別れたことは、今後永く語りつがれるべき一大成果であろう。

これにより、中国武術協会の活動の中に公式的に「武術の世界普及、発展」が位置づけられた。

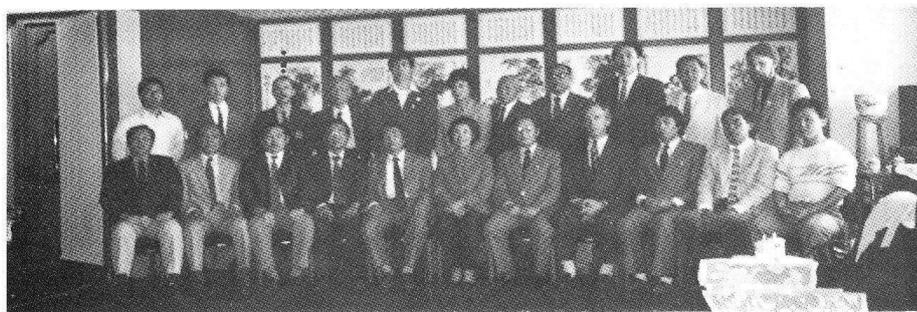
中国武術自身が、数千年の永いく眼りから醒めて世界に向けて動き始めたわけで、この会議の場にあわせ偶然にも日本の代表として「覚書」にサイン（つい一年前には、筆者の参加はありえなかつたに違いない）しながら深い感銘をおぼえたとともに、昨年六月、大阪の地で微力ながら私達の太極拳協会の全力を挙げて、日中友好協会の主催により、全国各地の関係者の協力をえて行われた「第一回全日本太極拳・中国武術表演大会」が、実は中国との友好や全国の交流のみ

ならず、世界の武術界の流れに乗ったものであり、タイムリーなヒットのようにピタリと一致したとり組みであったことを知り、この偶然にふしぎを感じるとともに、数千年の生命をもった武術（WU SHU）の力を考えさせられた。現代に開花した太極拳の理論となる陰

陽学説を生み伝えた道教思想の本山があり、伝説の仙人張三丰が住んだという霊山である武当山のすぐ近くのところで我々は会議を行い、帰国の途についた。武漢市の武術協会は、この武当派の武術を発掘し整理して現代によみがえらせている。



84 全国武術表演賽、三人対拳



### 国際会議出席国及び代表

中国を座長として、以下のとおり

- 中国（ホクト国）
  - 趙佑楨（中華全国体育協会展技部長）
  - 趙双道（中国武術協会秘書長、武術所長）
  - 劉 旦（中華全国体育協会展技部長、武術所長）
  - 蔡耀雲（中国武術協会副所長、国際部）
  - 葛佐俊（上海体育学院武術教研室主任）
  - 蘇自芳（臺灣省体育委員會）
  - 于立光（ハルビン師範大学武術教研室）
  - 温 力（武漢体育学院武術教研室）
  - ホンロン
  - 林煥光（香港國術總會水滸名譽会長）
  - 林 豐（林豐國術健身學院）
  - 魏 光（香港武術健身協會主席）
  - 杜 深（第一副主席）
  - マカオ
    - シムカボ（澳門武術協会秘書長）
    - 陳敬賢（新加坡全国武術協会秘書長）
    - 高長明（裁判主任）
    - ファイリビ
      - 盧慶輝（菲律賓中華光華園術館館長）
    - タイ
      - 馬劍臣（泰國太極拳健身總會主席）
      - 林豐雄（技術主任）
    - 西ドイツ
      - ユルゲイン・バウム（西ドイツ体育協会専務理事）
    - フランス
      - ジャンス・ルック・クルジンスキー（フランス太極拳協会主席）
    - 王術（フランス太極拳協会技術主任）
    - スウェーデン
      - ルイス・リン（スウェーデン武術協会主席）
    - ロバート・フロント（秘書長）
    - イタリア
      - ダン・シッタ（イタリア武術協会技術主任）
    - アメリカ
      - ロジャー・タン（アメリカ武術協会主席）
    - メキシコ
      - フランシスコ・バイエス（メキシコ武術協会技術部長）
    - ハミエル・ゴンザレス（教練）
- 日本
  - 川崎雅雄、石原泰彦、淺沼昌二
  - （全日本太極拳・中国武術表演大会）
  - 実行委員会、事務局

日本雑誌《太極拳》第17頁第二張照片攝於1984年2月在武漢舉行的首屆武術未來國際會議上。中國武術協會的嘉賓中；鄧大希第三個站在左邊。